

「新人目線」の用語解説

語句よみ

第249号



日興アセットマネジメントの新人。営業推進部門に配属され、投信や経済について勉強中。

今回のテーマ 投資家の注目を集める「インデックスファンド」

近年、日本の投資信託市場では、インデックスファンドの人気が高まっており、投資家の大きな注目を集めています。今回は「インデックスファンド」と「個々で特徴が異なるインデックス」について調べてみました。

1. インデックスファンド

インデックスファンドとは、基準価額の値動きを対象となるインデックス(指数)に連動するように運用される投資信託を指します。連動対象となるインデックスには、日経平均株価やTOPIX(東証株価指数)など株式を対象とするもののほか、債券やREIT(不動産投資信託)、コモディティ(商品)を対象とするものなど、様々な種類があります。

インデックスファンドの主なメリットの一つに、コストの低さが挙げられます。運用成果の目安とする指標(ベンチマーク)を設けない、あるいはベンチマークを超えるパフォーマンスを目指して運用を行なうアクティブファンドでは、個別銘柄の調査などの手間や費用がかかります。一方、インデックスファンドでは、こうした銘柄調査が不要となることなどから、運用にかかるコストが相対的に低くなる傾向にあります。また、商品性がシンプルで、連動対象とするインデックスの動きからファンドの動きを把握しやすく、投資の初心者にも比較的わかりやすいことなどもあり、近年、インデックスファンドは投資家からの人気を集めています。

また、長期での資産運用をサポートする目的で2018年1月から開始された少額投資非課税制度「つみたてNISA」では、一定の条件

ステップアップ

インデックスファンドは個人投資家のみならず、世界の年金基金や金融機関など、プロの投資家にも広く活用されています。



(次のページへ続きます)

■当資料は、日興アセットマネジメントが情報提供を目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解および図表等は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

を満たした商品が対象となっており、この多くをインデックスファンドが占めています。2024年からは、非課税保有期間の無期限化や年間投資枠の拡大など、現行のNISA制度の内容が大幅に拡充された「新NISA制度」が始まります。こうした政府による制度面での後押しもあり、今後、インデックスファンドへの注目度は一層高まると考えられます。

2. 個々で特徴が異なるインデックス

インデックスファンドが連動対象とするインデックスには、特定のアセットクラスや国・地域、セクターをカバーするものなど、様々な種類が存在しています。各指数はそれぞれ算出に当たってのルールを設けており、例えば日本の株式市場を代表する指数である日経平均株価とTOPIXを比べても、両者は異なる特徴を有しています。

日経平均株価は、「株価平均型」の株価指数で、東証プライム市場の上場銘柄の中から代表的な225銘柄を選出し、これらの銘柄の株価の平均を取ることで算出されます。このため、株価水準が高い銘柄の影響を受けやすい指数と言えます。一方、TOPIXは、構成銘柄の時価総額を基準日の値と比較して算出される「時価総額加重型」の株価指数で、東京証券取引所に上場する幅広い銘柄を対象に、各銘柄の時価総額（株価×流通株式数）を用いて算出されます。このため、時価総額が大きい銘柄の影響を受けやすい指数と言えます。また、日経平均株価に比べて構成銘柄が多いことや、時価総額をベースに算出されることなどから、株式市場全体の動向をより正確に表している指数と考えられます。このように、どちらも日本の株式市場を代表する指数という点では共通しているものの、算出に当たってのルールや構成銘柄が異なっており、指数の値動きにも違いが見られます。

株価平均型や時価総額加重型のほかにも、構成銘柄のウェイトを等しくするタイプや、銘柄の配当利回りや連続増配年数といった配当面に着目したものなど、様々な特徴を持つインデックスが存在しており、近年、インデックスファンドの種類も多様化が進んでいます。このように、インデックスは個々で特徴が異なっているため、インデックスファンドへの投資に当たっては、各インデックスの特徴などを理解することで、自身の投資スタイルに合った投資信託を選びやすくなると考えられます。

インデックスファンドを通じた投資を検討する際は、コストや人気などだけではなく、連動対象となるインデックスの特徴についてもしっかり把握しておきたいですね。

ステップアップ

米国の主な株価指数では、「NYダウ」が株価平均型、「S&P500」や「NASDAQ100」などが時価総額加重型のインデックスとして知られています。

